

議員派遣結果報告書

1	名 称	令和5年度市町村議会議員研修〔2日間コース〕 第2回「防災と議員の役割」
2	場 所	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所 (JIAM)
3	期 間	令和5年11月20日(月)から21日(火)までの2日間
4	内容・成果	<p>目 的：自然災害は毎年の各地で発生している。 住民の命と生活を守るため、日ごろからの防災意識の向上、訓練や備え、助け合える関係づくり、また行政との緊密な連携が改めて重要となっている。 研修で、災害発生に備え、平時からの防災の心構えや地域での連携の重要性について学び、現在の防災対策に関連する諸課題や議会・議員の果たすべき役割について学ぶ。</p> <p>参加者：市区町村議会議員 97 名</p> <p>1 日目</p> <p>1. 講義「大規模地震災害の予測と対応策」 講師/東京大学 名誉教授 平田 直氏 内容/</p> <p>*何のために地震発生を予測するのか 地震対応策（防災計画）を立案して、実施するため。 防災計画を作る前提となるのが、「被害想定」 予測は科学的な根拠に基づく推定 想定は対策を行うための前提である。</p> <p>*M7 以上の規模の地震は毎年 1~2 回、どこでも起きる可能性がある。強い地震は続発する。 耐震化されていない家屋の人は避難が必要。 M7 以上の地震に対して準備が必要である。 耐震化を進める</p> <p>*防災リテラシー（正しく防災を理解する能力、災害から生き延びる力）として、より良い社会と生活のために自分の事として、防災に取り組むための基本知識は①地域の特徴を理解する②他の地域の取り組みに学ぶ。 全国震動予測地図ある。防災科研ホームページ、J-SHIS 活用</p>

する。

\*震災への備え

揺れを感じたら、どこに、どの経路で、何を持って、逃げるのか。

大規模地震対策特別措置法に基づく地震防災応急対策

南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン

- ① 事前対策を推進することが、後発地震への備え、突発地震に対する安全性の確保につながる。
- ② 日頃からの地震への備えを再確認する
- ③ 地震発生後の避難では間に合わない可能性のあるよう配慮者は避難、それ以外のものは自主避難。
- ④ 地震発生後の避難では明らかに避難が完了できない地域の住民は避難。(事前避難)
- ⑤ 個別分野における防災対応の留意事項(内閣府、防災担当)

2. 講義「平時の防災と議員の役割」

講師/跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授

鍵屋 一氏

内容/

\*レジリエンス(困難を乗り越え回復する力)の3要素+1

①危機を予測する力

「正常化の偏見(自分は大丈夫)」を排し、科学的に予測する

②危機を予防する力

「被害抑止」と「対応準備」

③危機に対応する力

発生する被害に対応し、最小限に収める

④危機から回復する力

\*平時から正しい情報伝達と流言防止の仕組みづくり。

\*準備なしに大きな仕事はできない。事前に復興計画。

\*支援者の危機管理能力を向上させる必要がある。

\*避難場所を日頃から使う。避難所場所までの道を整備。確実な避難方法。

\*効率的に行うために、地区防災計画や個別避難計画に基づいて避難支援。

\*高齢社会の災害で最重要対策は福祉施設BCP作成の義務化、福祉避難所を多数整備して、災害関連死を防ぐ。

在宅の被災者支援として、自治会の見守り支援、福祉BCP、社協等。人との繋がりが重要。

\*避難所外避難者の支援計画・体制が必要。

\*被災者支援センターの設置。

被災地域では支援力が低下するが、支援ニーズは増加するから、官民合わせて、外部支援及び調整が必要。

### 3. ワークショップ

「大災害時に行政が効果的な対応をするために平時にするべきこと」

講師/防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子氏

内容/ワールド・カフェ形式による意見交換

北海道鹿追町、石川県羽咋市、福岡県久留米市の4人で。

#### 2 日目

##### 1. 「災害時における議会の対応と取り組み」

事例紹介 熊本県人吉市議会議員 徳川禎郁氏

防災無線が雨音で聞こえず、避難が遅れた。

ドコモ携帯だけが繋がっていた。

災害ボランティアセンター開設したがボランティア不足。

災害のごみ処理問題（場所の確保、分別は大事）

R6年4月より聴覚障がい者専用の避難所設置

議員は2人1組で在宅避難者へ配達支援し、災害本部に協力した。

議会 BCP はある。安否確認は情報つながらない状況だった。災害時住民のリーダーとして旗振り役に努めた。

##### 2. 「災害時、復旧、復興期の議員の役割」

講師/跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授

鍵屋 一氏

内容/

\*重要な地域防災政策とは

①住宅の耐震化②要配慮者支援③防災教育

\*大災害時には被害を減らすには住宅耐震化は重要。

墨田区の事例、高齢者は耐震化への意欲は高くないが、バリアフリーニーズは多い、合わせ技で進める。

耐震改修できない低所得者をどう守るか！

\*2021年は福祉防災元年

①個別避難計画作成を市区町村の努力義務化

②介護福祉事業所、障がい福祉サービス事業所に3年以内にBCP作成を義務付け

③福祉避難所ガイドライン改定

\*地域調整会議が最重要

計画内容を当事者、地域、福祉が繋がること。  
個別計画策定業務に福祉専門職の参画を得ることが重要で、  
介護、障がい事業所の BCP と重なる。

\*福祉避難所ガイドライン（2021.5月）

市町村は災害時、高齢者等避難が発令された場合などには、指定福祉避難所を開設する。

個別避難計画で福祉避難所施設との事前マッチングを行う。  
福祉避難所の負担軽減のために、受け入れ者を限定した公示を行う。

福祉避難所の充実に向けて、福祉防災コミュニティ協会が、実践的な福祉避難所開設・運営マニュアルを HP で無償公開。  
企業場版ふるさと納税で福祉避難所の整備や訓練を実施。

\*高齢者や障がい者を守るためにも地域と福祉との連携

防災行政、地域住民、福祉専門職の連携で、強みを生かし、弱みを補完する避難支援体制をつくる。

### 3. ワークショップ

「大災害時に議会、議員が効果的な対応をするために」

講師/跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授

鍵屋 一氏

内容/ワールド・カフェ形式による意見交換

北海道鹿追町、石川県羽咋市、福岡県久留米市の4人で

### 4. 災害時の議会・議員活動～まとめと展望～

\*BCP を定める意義とは、損失を最小化するためだが、議会 BCP でカバーしなければならないものとは。

議会の役割は二元代表制の監視機能と政策立案機能。

平時の防災特別委員会

\*災害時の議会・議員の使命は住民の命と尊厳を守る。

議会、議員だけではできないので、市町村当局と協働する。  
視察の受け入れ、要望活動する。

\*災害時に議会がしてはならないこと

①行政に負担をかける議会運営

②応急対策への批判的質疑

③他議員の活動批判

④災害直後の議会開催

\*応急対策期の議会、議員は

行政と一体となり、力を合わせ、同じ方向で応急対策期対応する。

①議長への情報一元化

5	所感	<p>②積極的な情報提供（行政と市民へ）</p> <p>③積極的な地域活動。できる支援を行い、議会活動の中に活かして、復興に繋げる。</p> <p>④オンライン会議をどう考えるか。</p> <p>*復興期の議会はまちの未来形成、議会審議。</p> <p>*議会 BCP の留意事項</p> <p>①職員が初動体制や応急対応に専念できるように配慮。 正確な情報を早期に収集、評価、分析する。</p> <p>②議会災害対策組織の位置づけ</p> <p>③議会機能の復旧</p> <p>④議会事務局職員の任務</p> <p>*議会が正常化の偏見を破ろう</p> <p>危機時には全庁的に対応する必要があるから、議会が質疑、提案等を通じて、重要性を訴え続ける必要がある。</p> <p>今年の取り組み、課題、今後どうするかを常任委員会で各部署の防災の質疑を行う。</p> <p>*災害時にトップがなすべきこと。</p> <p>①平時の訓練と備えが重要。</p> <p>②直面する危機への対応。命を守ることが最優先。</p> <p>③救援・復旧・復興への対応。</p> <p>トップは住民の前に姿を見せ、励ます。</p> <p>職員を意識的に休ませる。</p> <p>*防災基本条例や災害対策基本法の目的に「尊厳」を加えよう。</p> <p>*ご近所力（信頼の絆）こそが安心安全の源泉。</p> <p>*人を健康で幸福にするのは良い人間関係に尽きる。</p> <p>これからの防災は「価値向上型」、日常から人間関係、近所関係を良くして、誰一人取り残さない魅力ある地域社会、地域共生社会を創る。</p> <p>避難所の在り方、平時からの訓練、個別支援計画の重要性も再確認できました。またこれからの防災についての考え方も学べ、ワールド・カフェ形式による意見交換も体験し、有意義な研修でした。</p> <p>北栄町議会ではまだ議会 BCP（業務継続計画）は策定されていません。今回の研修内容を活かして取り組んで行きたいと思います。</p>
---	----	---